

令和2年度  
～ひとごとではなく、「自分ごと」、「みんなごと」として市民・行政が協働!～  
“みんなごと”のまちづくり推進事業 つながり促進プログラム

## 実績報告書

有限責任事業組合まちとしごと総合研究所  
代表組合員 東 信史

### 事業の主な内容

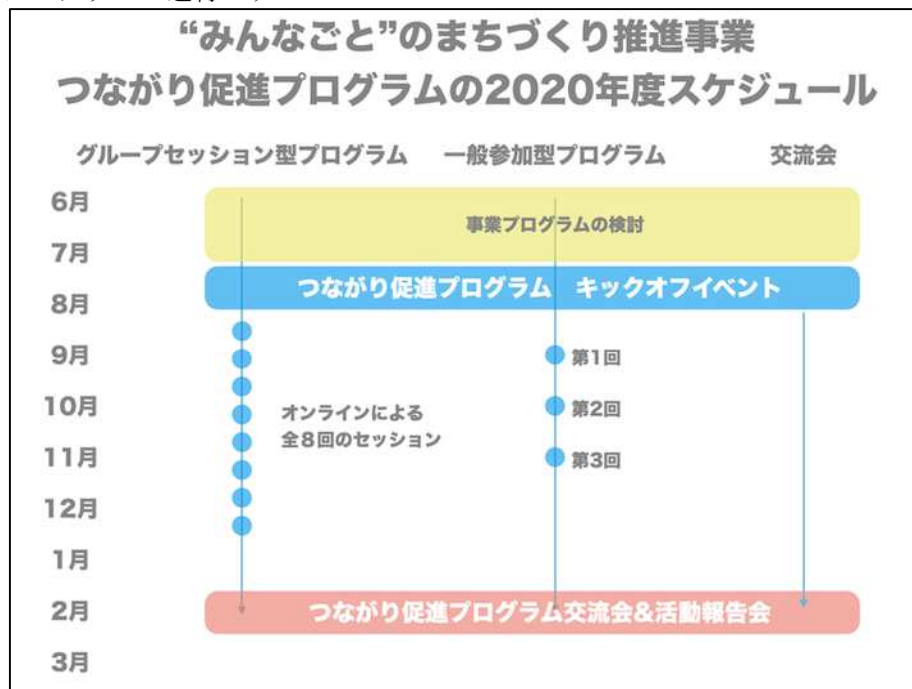
～ひとごとではなく、「自分ごと」、「みんなごと」として市民・行政が協働!～ “みんなごと”のまちづくり推進事業は、広く市民から、「京都がもっとよくなる」「もっと住みやすくなる」まちづくりの取組提案を募集し、「まちづくり・お宝バンク」に登録・公開するとともに、提案の実現に向けたきめ細やかなサポートなどを行う事業である。

本業務は、「つながり促進プログラム」を通じて、多様なセクター（まちづくり団体、NPO、企業、行政職員、大学関係者等）の参加者及び「まちづくり・お宝バンク」取組提案者同士のつながりを促進し、セクター間を超えたつながりづくりを図る人材の養成とともに、社会課題、地域課題の解決に向けた取組実践を生み出すためのサポートを行うものである。

なお、本業務の実施に当たっては、「市民力・地域力をいかした京都ならではの取組」といった観点を取り入れ、独創的なプログラムを構築し、つながりの促進や社会課題解決に向けた取組創出及び京都市全体のまちづくり活動の活性化を図るものである。

### (1) 「つながり促進プログラム」の提供

〈全体プログラムの進行スケジュール〉



#### ア)一般参加型プログラム

つながり促進を図る人材の養成を目指すとともに、幅広い取組提案者の活動を前進させるテーマを設定し、多数が参加できる講座等を年3回開催した。

また、取組提案者以外の参加者に“みんなごと”のまちづくり推進事業を積極的に広報し、年間10件程度の新規取組提案の提出に繋げるよう工夫した。

#### ＜実施概要＞

| 日時    | テーマ / 会場                                                       | 講師                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 参加数<br>/ 申込数 |
|-------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 9/2   | 繋がり、引き出し合う場をつくる<br>オンラインファシリテーションとは<br><br>会場/オンライン会議システムzoom  | 東 信史 / Higashi Nobufumi<br>まちとしごと総合研究所 代表組合員                                                                                                                                                                                                                                                                       | 30名<br>/36名  |
| 10/28 | 多様なメンバーがいる<br>コミュニティのマネジメントとは<br><br>会場/オンライン会議システムzoom        | 藤田 祐司 / Fujita Yuji<br>Peatix Japan 株式会社 共同創業者 取締役<br>CMO (最高マーケティング責任者)<br><br>舟橋 健雄 / Funahashi Takeo<br>078 実行委員会 Interactive 部門企画統括<br>TEDxKobe(テデックスコウベ)<br>ファウンダー兼オーガナイザー<br>(株)神戸デジタル・ラボマーケティング室長<br><br>崔 禎秀 / Sai Jeongsu<br>OBP アカデミア 学びの場づくり責任者<br>任意団体ライノ代表<br><br>池嶋 亮 / Ikeshima Ryo<br>NPO 法人ゼロワン理事 | 18名<br>/31名  |
| 11/11 | 多くの仲間と想いを<br>カタチに変えるための<br>共創のデザインとは<br><br>会場/オンライン会議システムzoom | 藤岡 聡子 / Fujioka Satoko<br>ほっちのロッヂ共同代表・福祉環境設計士<br>株式会社ReDo 代表取締役<br><br>西濱 萌根 / Nishihama Mone<br>株式会社NINIROOM 共同代表                                                                                                                                                                                                 | 14名<br>/27名  |

## ▶各種公開講座 -つながり促進を図る人材の養成のための講座-

2020年度のつながり促進プログラムの公開講座では、全3回のプログラムを通じて「つながり促進を図る人材の養成」と「オンラインによるコロナ禍におけるプロジェクトの進め方」をテーマに、ファシリテーションスキルやオンラインにおける関係性づくりや共創のアイディアの考え方について学び、新たな時代の活動方法について探求を行った。各講座では、参加者同士のネットワークづくりも積極的に行い、コロナ禍でも意欲的な参加者とともに学び、新たな関係づくりや連携づくりが実現した。

(※各講座の内容については、別途レポートを参照)

### 公開講座#1

<https://note.com/machigoto/n/n3d7fa0be65c5>

### 公開講座#2

<https://note.com/machigoto/n/n8c3cc256303a>

### 公開講座#3

<https://note.com/machigoto/n/n64377875c0e2>



## イ グループセッション型プログラム

多様なセクター（まちづくり団体、企業人、行政職員、大学関係者等）のメンバーを募集し、全8回のセクターを超えて価値を創造するためのセッションをオンライン会議システム zoomを利用して実施した。参加登録数は40名（市役所職員3名/アドバイザー4名含む）となり、2020年9月から2021年2月までの6ヶ月のプログラムを通じて5つのチームが生まれた。

セクター別の参加者割合は、下記の通りとなった

企業15名 (38%)・まちづくり/NPO 6名 (15%)・行政7名 (18%)・大学3名 (7%)・その他9名 (22%)

### ・最終メンバー(24名+職員等)とプロジェクトは下記の通り

|   | 取り組みたい<br>テーマ      | テーマ<br>起案者 | 実現したい未来                          | 解決したい課題              | チームメンバー                                               |
|---|--------------------|------------|----------------------------------|----------------------|-------------------------------------------------------|
| 1 | モバイル屋台<br>チーム      | 橋本千恵       | 自分の居場所づくり                        | コミュニケーション<br>空間の創出   | 安孫子友紀、板倉信太郎<br>中水かおる、村木勇介<br>芳野尚子                     |
| 2 | 屋外体験拠点<br>チーム      | 岡田典子       | 大人と子どもの自由な<br>遊び場づくり             | 外遊び場の少なさ             | 浅田真実、伊藤友里<br>井上真由美、宇都宮信人<br>太田宜志、三野玄太<br>柳生秀哉(アドバイザー) |
| 3 | 多様性と共生を<br>考えよう会   | 井上佳織       | 誰もが気軽に自分のこ<br>とを話せる社会            | 話づらさの解消              | 長村英俊、丸木伸洋<br>坂巻譲理(市職員)                                |
| 4 | 知的探検団<br>Shiru-te? | 浅田綾乃       | オンライン時代におけ<br>るより良いコミュニケ<br>ーション | 声を出さない場面<br>でのリアクション | 石倉美佳、板倉信太郎<br>植田千尋、中水かおる<br>福村雄一、本田耕志                 |
| 5 | オンライン<br>図書室       | 平山貴一       | 多世代の交流機会が当<br>たり前にある社会           | 話すきっかけの<br>少なさ       | 安孫子友紀、野口直樹<br>福田達也(市職員)<br>岩田竜之介(市職員)                 |

## ▶キックオフイベント「セクターを越えた繋がりが生み出すインパクトとは」

つながり促進プログラムのキックオフでは、昨年度の実践の振り返りとともに、今年度のコロナ禍の状況を踏まえて、どのような視点での取り組みや実践が必要かについてや、改めてセクターを越えた繋がりを生み出していくためのヒントを各ゲストの活動から紐解いていった。

ゲストには多彩なメンバーや組織と様々な事業を手掛けられている株式会社ミミクリデザインの臼井氏、dot button companyの中屋氏をお招きし、その事業を行ううえでの連携のヒントを伺った。また、京都信用金庫が新たに立ち上げた『QUESTION』を担当する柳井氏からは、京都における共創の取り組みについて現状を伺った。その中から、自ら声を出していくことや、やりたいことだけでなく「問いを投げる」など、これまでになかった視点から共創のネットワークづくりを行なっていく視点を学んだ。後半は、参加者も交え対話を行いながら、プログラムの可能性について考える時間となった。



| 日時   | テーマ / 会場                                                                                | 講師                                                                                                                                                        | 参加数/<br>申込数     |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 8/22 | X Cross Sector Kyoto 2020キックオフ<br>セクターを越えた繋がりが生み出す<br>インパクトとは<br><br>会場/オンライン会議システムzoom | 臼井 隆志 / Usui Takashi<br>株式会社 MimicryDesign ディレクター<br>柳井 秀哉 / Yanai Hideya<br>京都信用金庫 QUESTION 代理<br>中屋 祐輔 / Nakaya Yusuke<br>dot button company 株式会社 代表取締役 | 56名<br><br>/67名 |

## ▶グループセッションプログラムの実施内容

令和2年度のグループセッションプログラムでは、参加者同士の関係性づくりをベースに行いながら、地域や社会における課題について知り、学ぶとともに、お互いの持つリソースを生かしながらどのような解決方法があるか見出していくためのワークショッププログラムを実施した。プログラムの構成としては「理解、創造、実現」の3つのステップを用意し、中間報告や活動報告を準備しながら、徐々にステップアップしていくように準備を行った。また、昨年度の振り返りやコロナ禍の影響もあり、予定していたプログラムを変更し、参加者同士の接点数を増やす目的でプログラム回数を増やし実施した。

また、各チームの事業を発展させていくために事業アドバイザーを招待し、それぞれのチーム活動について共創や連携の視点からアドバイス頂いた。

## ＜グループセッションプログラムの進行スケジュール＞



## ＜グループセッションプログラムのアドバイザー＞

**4名のアドバイザーサポート**



**柳井 秀哉**  
京都信用金庫 QUESTION



**櫛田 理彩**  
医療法人三家クリニック・NEFNE



**田村 篤史**  
株式会社ツナグム(京都移住計画)



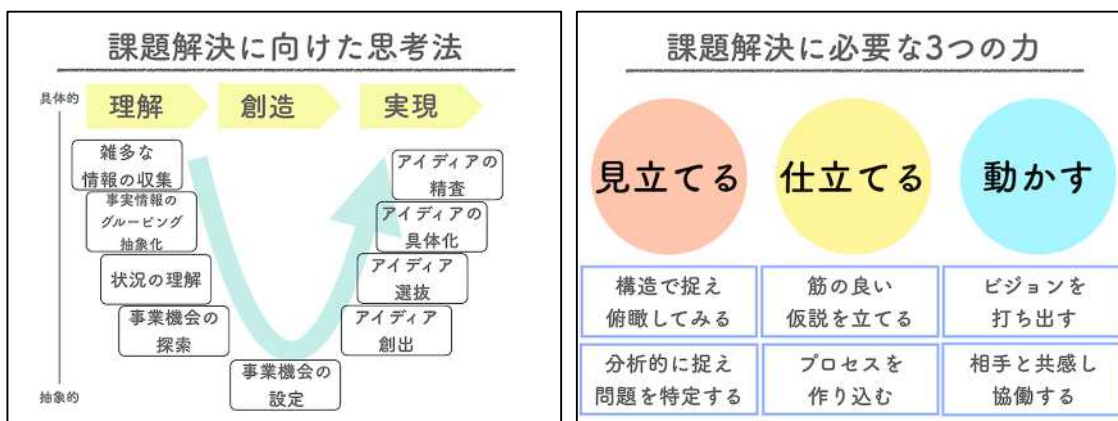
**近藤 貴馬**  
西喜商店・さらえるキッチン

## 第1回グループセッションプログラム / 9.9(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/37名

### - 共創の実現に向けた思考法とは

#### <プログラム概要>

第1回では、参加メンバー同士の顔合わせを中心に、自己紹介や参加した理由について1人一言ずつ話してもらってチェックインをメインに実施しながら、後半では改めて同プログラムの趣旨や目的について共有を行い、京都市における多様なセクター連携の可能性や解決していきたい課題について共有し、今後の進め方や大事にしたい考え方についても話をした。

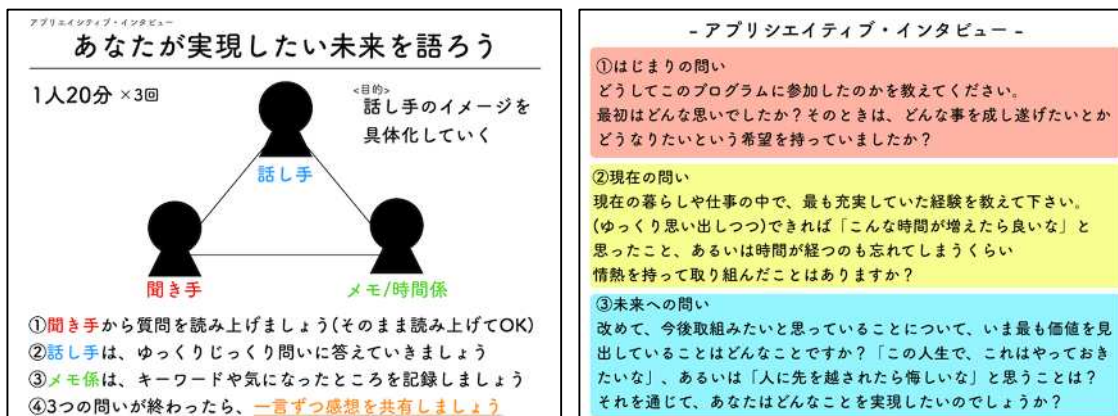


## 第2回グループセッションプログラム / 9.16(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/31名

### - 先進的な事例 / 取り組むテーマの共有

#### <プログラム概要>

第2回では、1期の事例を共有した後に、参加者がプログラムを通じて実現していきたいことについて、相互インタビューを行うワークショップを実践した。プログラムへの参加理由や、現在取り組んでいることの共有、今後実現したいことについて言語化しながら、互いの思いを共有することで、実践したいテーマを明確にする機会づくりを行った。



第3回グループセッションプログラム / 9.23(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/30名  
 - プログラムを通じて実現したいことは？

＜プログラム概要＞

第3回では、事前に考えてきた「やりたいこと」をメンバー間で相談する「プロアクションカフェ」を行い、チームづくりの前段階としてどんなことが実践できそうかや、どんな協力が周りから得られそうかを検討する時間をつくった。また、次回にチームづくりを行うことを伝え改めて自身がこのプログラムで実現したいことについて考えてもらうように伝えた。

プロアクション・カフェ

### あなたが実現したい未来を語ろう

1人10分 × 4回 <目的> 話し手のイメージを具体化する



話し手



聞き手 (メモ/時間係)

- ①話し手から3分程度で書いたことを共有してみましょう
- ②聞き手は、2つの観点から話し手に質問を投げかけましょう  
 (「アドバイス」ではなく、質問を投げかけましょう)  
 - 相手が本当に大事にしている(大事にしたい)ことは何か？  
 - その実現のために必要なことは何か？どんな一歩が必要？
- ③1分前になったら、話し手からお礼と感想を一言！



第4回グループセッションプログラム / 9.30(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/29名  
 - 取り組むテーマとチームづくり

＜プログラム概要＞

第4回では、チームづくりを前提とした「テーマオーナー」募集を行い、他メンバーは自身が参加してみたい活動テーマに合流してもらう形で活動を進めた。各チームが出来上がり、メンバー同士の簡単な顔合わせを行うとともに、今後3週間に実施してきた欲しいことなどを共有した。

### テーマ募集

あなたが取り組みたいことは？

(1人1-2分程度)

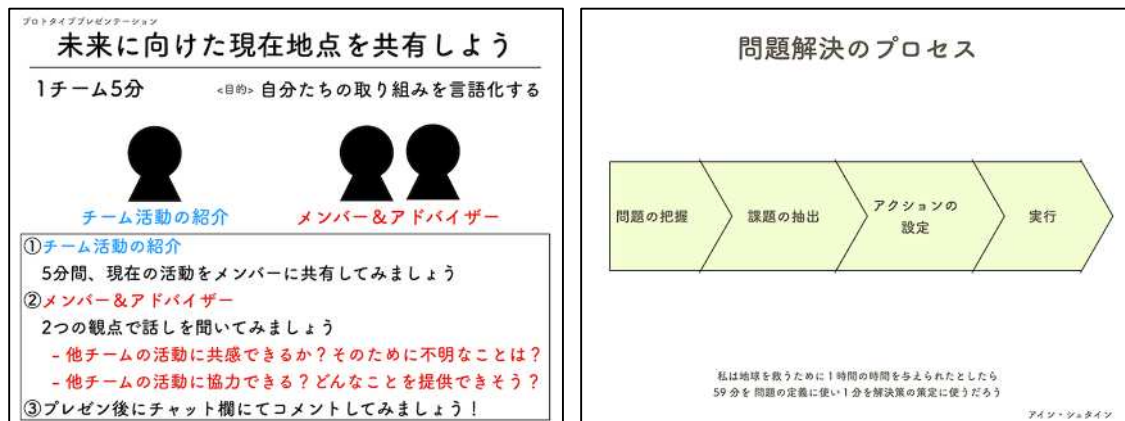
### 今後のスケジュール

|      |                                                     |
|------|-----------------------------------------------------|
| 見立てる | 3週間 ↑ チームミーティング / 事務局相談                             |
|      | 第5回/10月21日(水) 20:00-21:30<br>活動テーマの共有と、課題設定の手法について  |
| 仕立てる | 2週間 ↓ チームミーティング / 事務局相談                             |
|      | 第6回11月4日(水) 20:00-21:30<br>中間発表: アドバイザーによるフィードバック   |
| 動かす  | 2週間 ↑ チームミーティング / 事務局・アドバイザー相談                      |
|      | 第7回11月18日(水) 20:00-21:30<br>レクチャー: ビジネス・事業化に向けた視点とは |
|      | 2週間 ↓ チームミーティング / 事務局・アドバイザー相談                      |
|      | 第8回12月2日(水) 20:00-21:30<br>最終発表: 多様なレビューアによるフィードバック |
|      | ↓ チームアクション / 伴走: 2021年2月に活動報告会                      |

第5回グループセッションプログラム / 10.21(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/22名  
 - 活動テーマの共有と、課題設定の手法について

<プログラム概要>

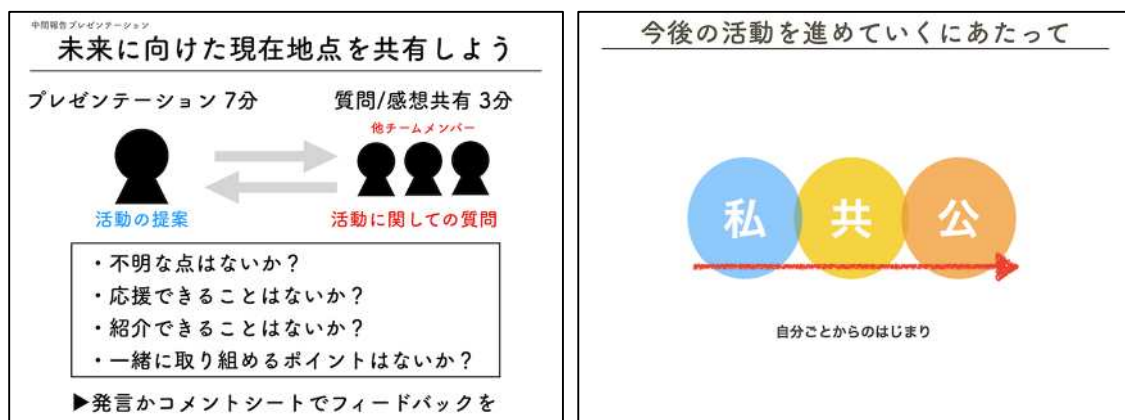
第5回では、3週間で考えてきたチーム活動についての共有を行っていただき、他メンバーからはプレゼンテーションを聞いてみての感想や質問についてフィードバックを行ってもらった。また、アドバイザーから多様なメンバーの連携や協力を得るための視点についてレクチャーを実施した。運営からも、問題解決のプロセスについて共有を行なった。



第6回グループセッションプログラム / 11.4(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/27名  
 - 中間報告 / アドバイザーによるフィードバック

<プログラム概要>

第6回では、中間報告として現時点のチーム内でまとめた「実現したい未来」「解決したい課題」「アクションプラン」についてプレゼンテーションを行ってもらった。その上で、他メンバーからのフィードバックを送るとともに、今後の活動の展開について、改めて自分たちが実践していきたいことと、地域/社会課題の解決の実践のバランスについて考えてもらうようレクチャーを行なった。

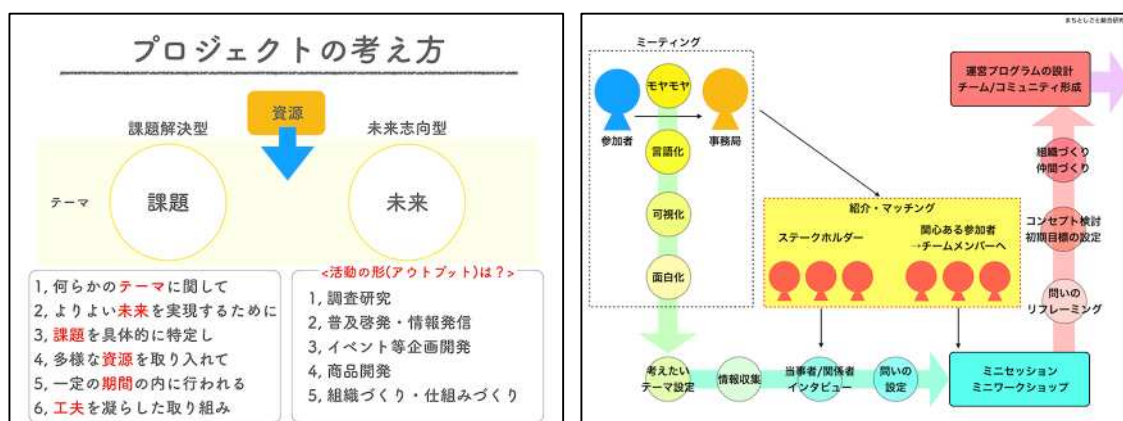


## 第7回グループセッションプログラム / 11.18(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/27名

### - ビジネス・事業化に向けた視点とは

#### <プログラム概要>

第7回では、チームミーティングをメインに行ってもらいながら、それぞれのMTGを運営、アドバイザーが回りながらサポートしていった。また、活動を継続的に実践していくために必要な視点として、課題解決のプロジェクトとして目指すアウトプットや、他者を巻き込んでいくプロセスについても紹介を行い、アクションプランのブラッシュアップを実施した。



## 第8回グループセッションプログラム / 12.2(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/30名

### - 多様なレビュアーによるフィードバック

#### <プログラム概要>

第8回では、3ヶ月のセッションを経て考えた5つのチームのアクションプランのプレゼンテーションを実施した。また、当日の様子はオンラインでLIVE配信を行いながら、広く多様な人たちにもご覧いただきながら、様々な視点からのフィードバックや応援者の獲得を目指した。参加したアドバイザーからもそれぞれの活動に対するアドバイスをもらい、これからの活動の発展のための機会となった。



X Cross Sector Kyoto OPEN DAY online 2.27(土)13:00-16:00 @zoom 参加者数/57名  
- 交流会&活動報告会

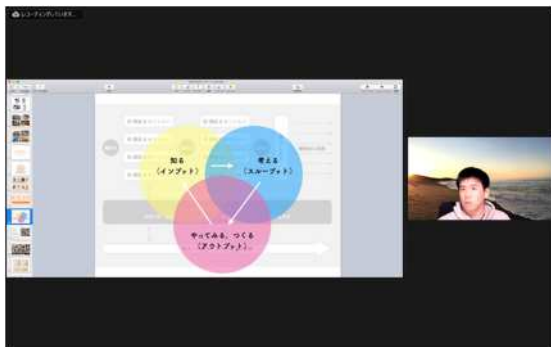
〈プログラム概要〉

交流会&活動報告会では、ゲストトークを交え、6ヶ月間のセッションで生まれた活動のアクションプランを紹介するとともに、コロナ禍におけるオンラインによる共創プログラムの実践についての振り返りと検証を実施した。

活動が生まれた全5チームからは、これまでに実施した様々な実践から見つけた現状の課題や実現したい未来について共有が行われ、多様なセクターとの連携を含めたアクションプランの提案が行われた。各チームともに今後のアクションへの提案が多く、継続した活動展開が見込めるようなプランとなっていた。

後半は、各チームの提案もふまえながら、各地で行われているオンラインによる共創プログラムの実践例の共有が行われ、他者との連携や課題解決に向けたプロセスの検証など、様々な視点から「X Cross Sector Kyoto」のプログラムの振り返りを行なった。参加メンバーからの声や当日参加いただいた全国の方々からの質問や提案も受けながら、今後のプログラムの発展についても考える機会ができた。

最後は、ゲストやセッション参加者、交流会参加者を交えたグループセッションを実施しながら交流し、次年度に向けた展望について話すことができる機会となった。



## ▶各プロジェクトチームの提案内容<概略>

### 1, モバイル屋台チーム

畳んで持ち運べる屋台を活用した、コミュニティづくりのプロジェクト。自身の「自分だけの居場所が作りたい」というニーズから始まり、モバイル屋台の制作を大工との連携により実現したり、機動性を活かして河川や公園、各種イベントでの出店などで、個人が他者との関係性をつくりだすきっかけのツールとして活用が注目されている。



### 2, 屋外体験拠点チーム

子どもの遊び場の拠点作りとしてスタートし、外遊びのニーズの掘り起こしや、外遊びの阻害要因を把握しながら、大人も子どもも楽しめる自由な空間をつくりだす移動式の活動に発展。公園などの公共空間を用いた、新たな遊びと繋がり提案を行うプログラムを企画し、他者を巻き込みながら活動を始めている。



### 3, 多様性と共生を考えよう会

コミュニケーションの間に潜む「話づらさ」を捉え直し、ありのままに語れる機会づくりを模索。オンラインコミュニケーションの発展の機会を活かしながら、お面やマスクをして対話するプログラムを提案し、「多様性とは何か」を考えながら普段打ち明けづらいことを語り合う対話の場を作り出している。



### 4, 知的探検団 Shiru-te?

コロナ禍におけるオンラインコミュニケーションに注目し、声を出さない中で手話を活用した表現や反応を取り入れることで、活性化できないかを検討。その後、手話エンターテインメント発信団oioiと連携し、黙食や黙乗の時代にこそ、手話を日常に取り入れる機会と捉え直し、様々な場面でのイベントプログラムの展開を仕掛けている。



## 5、オンライン図書室

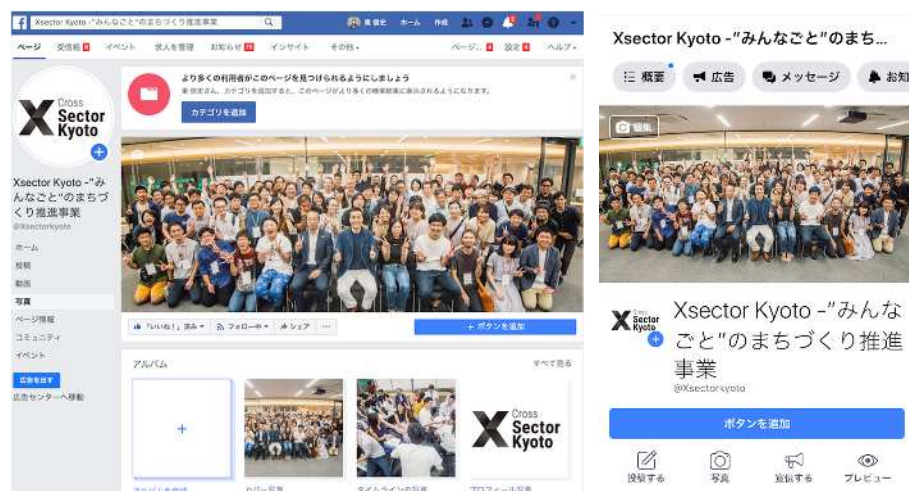
多様な世代が繋がり、関係をつくれる社会を作ることを目指し、誰しもが持っているであろう人生に影響を与えてくれた本に注目をしたプロジェクト。それぞれが持つエピソードをインタビューし記録するとともに、web上で陳列することで、本と経験を誰かに伝えていくシステムづくりを実践。本の価値の再発見に加え、自身のエピソードを語ってもらうことで、手に取った背景や感じたことを語る機会作りもうまれ、様々な対話のきっかけが生まれている。



## (2)「つながり促進プログラム」の実施に関する広報

各プログラムを実施するにあたっては、事前の情報公開を行いチラシや SNS による発信を行い、幅広く活動の認知が広がるよう努めた。また、今期はオンラインでの開催が多かったこともあり、各イベントやセッション終了後にはイベントレポートを作成することで、地域・まちづくり活動に関心のある方向けに PR を実施した。(次ページに制作物あり)

### ▶Facebook ページ「Xsector Kyoto -”みんなごと”のまちづくり推進事業」



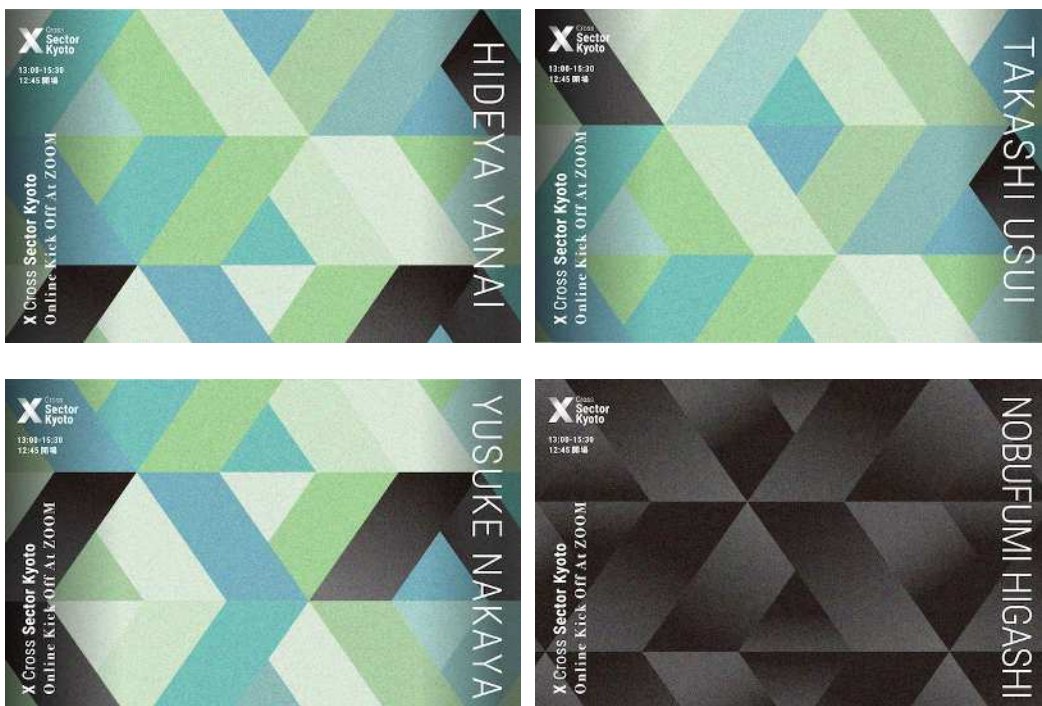
### ▶各種イベントページ(Facebook/Peatix)デザイン



- ▶ 各チラシ
- キックオフイベント、活動報告&交流会



- ▶ zoom用背景画像



### 3. 「つながり促進プログラム」の提供に係る窓口及びコーディネート業務

京都市やアドバイザー等との打ち合わせや会議は随時対面やメール、Zoom(オンライン会議システム)で実施した。グループセッションプログラムの各チームとは会議やワークショップの実施を行うにあたり、連携先の紹介やプログラム内容の相談にのりながら、コーディネートなどを実施した。その他、上記実施に必要な会議用資料作成、説明等を実施した。

### 〈つながり促進プログラムを実施した効果、事業の課題、今後の展開等について〉

一般参加型プログラムでは、オンライン化に伴うプログラムテーマに合わせることで、幅広い参加者にお越しいただくことができた。今後も、多様なセクターの連携においてオンラインツールの活用は必須となってくると思われるので、引き続き最新の実践的な情報を用いた取り組みを行なっていくことが必要だと考える。一方で、ツール活用ばかりでなく、現状起きている新たな社会的課題や地域の困りごとを共有する必要も出てきたように感じられるので、来年度の参加型プログラムにおいては、課題の共有や本質的課題の探求をテーマにした講座の開催なども検討すべきではと考える。

グループセッション型プログラムでは、昨年とは異なるプログラムで実施した中でも、参加者同士の交流の接点を増やしたことで、チームとしてのまとまりや連携を行なっていく上での素地を形づくることには効果的だったと思われるため、継続して行なっても良いと考えられる。また、オンラインを活用した場づくりの可能性も見出され、京都市内はもちろんのこと、市外や県外からも京都市に関心のある方やゆかりのある方の参加が見受けられた。今後は、多様な連携先の考えを広く捉え直し、京都市が抱える課題を全国の関係者とともに考える動きも実施できると認識している。

新たに生まれた5つのチーム活動については、コロナ禍により活動自体に制限がかかってしまう状況だったため積極的な人の巻き込みやイベントの開催等が難しかったが、いまだからこそその視点でプロジェクトのアクションを検討するチームがあったことから、状況下に合わせたアウトプットを検討することで、活動につながるのではないかと考える。そのためのサポートをアドバイザーや他者の視点からフィードバックすることで、ブラッシュアップされていく環境をつくることは今後も継続して良いと考える。

最後に、活動報告会において他府県で取り組まれている事例の紹介などからも、まずは参加者それぞれが自身の普段の肩書を取り払い、仕事の視点を抜いた上で、社会や地域、身の回りで気になっていることを共有していくことや、そのために実現したいことを見出していく大切さを改めて感じた。そのうえで、実現のために自身の仕事やチームメンバーの持つリソースを組み合わせながら取り組んでいくことで、これまでになかった視点での活動が生まれたり、世の中の課題を捉え直すことができるのではないかと考える。この取り組みも、今年度の事業を踏まえて、新たなプログラムにてセクター連携が生まれるプラットフォームとして様々な知見を集めていけるよう取り組み続けていく必要がある。